

大会宣言

私たち、日本輸送サービス労働組合連合会(JTSU)は、赤羽会館大ホールにおいて、第5回定期大会を開催し、エッセンシャルワーカーとしての輸送サービス業に相応しいJR東日本グループ全体の賃金・労働条件の向上と、総合労働政策の定着に向け、職場と地域の力で総合労働政策を実現させることを確認した。

昨年に引き続き新型コロナウイルスは世界中に蔓延し、いまだ収束の見通しが立たない状況にある。そのような中でも、組合員はエッセンシャルワーカーの責務を全うするため安全、輸送サービスの向上に日夜奮闘し続けている。また、鉄道利用者の車内における感染予防・防止にもグループ全体で取り組み、公共交通の社会的使命を果たしてきた。しかし、3月に実施されたダイヤ改正では、JR日光線や宇都宮線での減車・減便による混雑状況の悪化によって地域や多くの利用者から不満の声が上がっている。他にも駅の時計撤去、ワンマン運転の拡大、みどりの窓口の閉鎖などの施策による鉄道輸送サービスの低下が地域や国政でも取り上げられている。この事態に対し、私たちは地域や利用者の声に真摯に向き合い、国鉄改革から35年が経過した今日、JR東日本が地域や利用者に愛され、利用され、真の「公共交通機関」としての役割を果たせる企業へと生まれ変わらせるための広範な運動を展開していかなければならない。

いま日本社会では、政治家や大手企業幹部の倫理観を問われる言動が問題視されている。JR東日本グループにおいても、働く人たちの尊厳を踏みにじるハラスメント行為が横行している。ESG経営の実践を掲げた企業理念とは程遠い現実に職場風土は荒廃し、離職や休職を余儀なくされる人たちは後を絶たない状況にある。私たちは「利用者の命と安全を守る」という輸送サービスの使命を果たすために、誰もが公平・平等に活躍し、安心して働くことができる風通しのいい職場風土をグループ全体でつくり出していかなければならない。そのために、あらゆるハラスメント行為や不当労働行為を職場から撲滅するために、引き続き第三者機関を活用しながら、JR東日本グループ内で起きている現実を社会に発信し、「一人がみんなのために、みんなが一人のために」安全・安心して働く職場環境を取り戻すために組合員が一丸となってたたかおう。

今年は沖縄が本土に復帰してから50年の節目を迎えた。しかし、いまもなお米軍基地は沖縄に集中し、これに伴う米兵による事件や事故は後を絶たない。辺野古への新基地建設も沖縄の人たちの民意を踏みにじりながら工事が続いている。沖縄に対する人権侵害や差別は、日本国憲法の下に復帰を果たしてもなお、いまも形を変えて存在している。また、石油や石炭などのエネルギーの奪い合いによって地球環境、とりわけ「気候危機」は、今やあらゆる生命の存亡に関わる重大な問題としてまさに「待ったなし」の状況である。そして今年10月1日には「労働者協同組合法」が施行されるにあたり、「雇用労働」と「協同労働」が共存する新たな時代を迎えている。私たちは、本土復帰50年の節目に「未来のエネルギー」「未来の平和」「未来の働き方」の3つのテーマをつなぎ・考える「みんなの平和・未来フォーラム」に参画し、有識者や賛同者、そして連帯する多くの仲間と共に「新たな運動」の地平を切り拓くことができた。子どもたちへ平和な未来社会を引き継ぐためにここで培った連帯の輪を仲間へ、地域社会へ、日本へ、そして地球規模への連帯に高めるために奮闘しよう。

7月10日投開票予定の「第26回参議院選挙」は、5月3日で施行75年を迎える日本国憲法、とりわけ9条を守り抜くか否か、日本の行く末を決める重要な選挙である。ロシアのウクライナ軍事侵攻に便乗した「核共有」や「敵基地攻撃能力の保有」などのあらゆる戦争政策を許さず、憲法9条を守る広範な連帯を築き上げ、推薦・支持候補者全員の必勝を目指そう。

時代はまさに大きな転換点を迎えている。地球規模で起きている「危機」を乗り越え、地球環境を守り戦争のない平和で安心して働き暮らせる社会はどうあるべきかをみんなで考えよう！そしてJTSUから新たな未来を創造する政策を練り上げて、連帯するすべての仲間と共に実現に向けて邁進しよう！

以上、宣言する。

2022年6月4日
日本輸送サービス労働組合連合会
第5回定期大会